

# コミュニケーションとメディアの倫理

国際関係学科 飯野 勝己

●連絡先 TEL.090-2162-9888 FAX.054-264-5320



倫理学、哲学、言語とコミュニケーション、マスメディア、  
メディア形式、メディア・コミュニケーション、メディア受容、言葉と暴力

私はメディア企業でしばらく働いたのち、大学教員に転じました。時事通信社の出版局、次いで出版社の平凡社に勤務して、計20年間、書籍や雑誌の編集者として過ごしました。それと並んで社会人博士課程に籍をおき、かねてからの研究テーマ(言語とコミュニケーションの哲学)で博士論文を書いて学位を取得、2009年より静岡県立大学に転じました。

現在の研究は、「コミュニケーションとメディアの倫理」というテーマで進めています。その根本には、編集者時代に感じざるをえなかった理不尽さがあります。

たとえば、私が勤めていた出版社は人文・芸術系を中心とした、いわゆる「良書出版社」の典型のような会社でした。外部の人からは「いい本出してるよね」とよく言われました。しかし、社内の会議や同僚との会話のなかで、出版の意義とか社会的使命について語られることは、まずありませんでした。実際には、売れるか売れないか、といった話題がほぼすべてを占めているのです。これは通信社でも似ています。記者や編集者が血道をあげるのは、どう他社を出し抜くか、どう特オチを防ぐかといったことで、ジャーナリズムのあるべき姿とは、といった問いが日常振り返られることはまれです。私にはこれが、どうにも理不尽に感じられたのです。なぜここまで建前と現実が違うのだろうか、と。

そんな思いから、大学に移り「売れる・売れない」に忙殺される状況から距離をとれるようになったのを機に、コミュニケーションとメディアの倫理についての研究に着手しました。重視している観点は2つあります。まず第1に、「メディアそのもの」の倫理的ありように根本から迫ること。メディア倫理というと、報道内容や表現手法といった、「メディア内容」の倫理ばかりが目されがちですが、より根本的なメディア形式そのものの倫理もあるのではないかと、という観点です。メディアの本質的ありようや、コミュニケーションの基本構造の探究などを通して、そうしたものに迫っていきたいと思います。そして第2に、「メディア受容」の倫理という視点を大切にすること。ある種「メディア・リテラシー」的な観点とも関連しますが、いかに倫理的なメディア受容者・解釈者としての自己を形成するかという点を、個人の研究だけでなく大学におけるメディア教育の実践も通じて、考えていきたいと思っています。

基本方針は以上のような具合ですが、具体的には様々な切り口があります。ここ数年はもっぱら、「コミュニケーションとメディアの暴力」という観点を切り口に、論文執筆や研究発表を行っています。「暴力論」をテーマにした科学研究費の共同研究プロジェクトも、数年前から進めています。今後も、多角的に研究と考察を進めていきたいと思います。